

「屈斜路湖マリゴケ」について



教育長職務代理者 金井 秀明

弟子屈町文化財の中で天然記念物に指定されているのは、国指定も受けている和琴半島の「和琴ミンミンゼミ発生地」と、町指定の「屈斜路マリゴケ」（1969年7月11日指定）があります。今回はこのマリゴケについての話です。

マリゴケは、屈斜路湖底に生えているコケ類が死んだり、ちぎれたりした物（植物遺体）が、湖底で地形や波の影響によって丸くなったものです。色は茶色で、形は丸から俵状までいろいろあります。阿寒湖に生息するマリモは、マリモと言う名前の藻の生きた集合体のことで、緑色で形は球形で成長します。

1942年ごろに屈斜路湖で発見されたマリゴケは、1965年に北海道大学教授・山田幸男氏の現地調査により、マリゴケ形成の学術資源として高く評価され、また日本で最初に発見された猪苗代湖のマリゴケは既に絶滅したことなどを踏まえ、1969年に弟子屈町文化財に指定されました。（参考資料1）その後、2003年に弟子屈町文化財保護委員会でマリゴケの生息調査が屈斜路湖全域で行われました。（参考資料2）構成体である蘚苔類（せんたいるい）の和名について山田教授は、ホソヤナギゴケ、シミズヒシャクゴケ、マルバチョウセンゴケと表記しています。現在、弟子屈町史や和琴半島に在る看板にもその和名が記載されています。1983年に服部植物研究所の元所長・岩月善之助氏らが調査した論文では、ナガバヤナギゴケと表記されています。（参考資料3）また、岩月氏は他の蘚苔類として、イナフシロウロコゴケとヒロハノススキゴケを上げていますが、文化財指定理由書に記載されているシミズヒシャクゴケ、マルバチョウセンゴケの名前は記載されていません。国立極地研究所名誉教授の神田啓史氏は、論文でクッチャロウカミカマゴケと表記しています。（参考資料4）

2003年に第2刷（2001年初版）として出版された平凡社出版、編者・岩月善之助氏による「日本の野生植物コケ」では、189ページにウカミカマゴケとして記載されています。ノートとして『北海道屈斜路湖の川湯近くの強酸性の水中に、本種の大群落がある。荒波でちぎれた植物体が波打ち際で回転して「毬ゴケ」になる。』と記載されています。このように論文により植物体の名前が統一されおらず、また時代の進化で分類法も進化し、和名が変わることは有り得ます。このようなことから、マリゴケを構成する植物体の和名、生息地、分布を調査で明らかにしていく必要があります。またマリゴケの個体数が減少していると言われていますが、（参考資料2）その構成体である蘚苔類を保全しない限り、マリゴケは形成されません。

以上のことより、弟子屈町教育委員会は玉川大学農学部と屈斜路湖で共同調査を行っています。屈斜路湖のマリゴケが消滅すれば日本からもマリゴケは無くなります。



打ち上げられたマリゴケ

（参考資料1）

弟子屈町史第3巻588～589ページ
第7編 教育と文化財 マリゴケ

（参考資料2）

弟子屈町史第3巻596～601ページ
第7編 教育と文化財 屈斜路湖マリゴケ
個体簡易調査

（参考資料3）

岩月善之助・滝田謙謙・Janice M. Glime
屈斜路湖のマリゴケ 蘚苔地衣類雑報9月号
199～201ページ 1983年

（参考資料4）

神田啓史 和名はクッチャロウカミカマゴケ
週刊朝日百科 植物の世界136 12 120
ページ 1983年

教育委員コラム

Column of the member of the board of education

No. 35

2023/4

発行／弟子屈町教育委員会
 教育長 岩原 勝行
 教育長職務代理者 金井 秀明
 委員 菅原 誓之徳
 委員 吉田 一徳
 委員 宮田 昇子

仲間と共に乗り越えた3年間

教育長 岩原 勝行

3月1日の弟子屈高校卒業式を皮切りに、町内小中学校で卒業式が行われました。3年余り続いた新型コロナウイルス感染症によって、入学早々に緊急事態宣言により臨時休校となるなど、様々な場面で本来の学校生活や行事などに制限がある中で過ごした高校生や中学生。そんな状況でも、何事も諦めることなく、仲間と相談し、今できることを考え、行動した3年間。そんな様子が多くの卒業式で語られていました。夢や希望を持ち、明るい未来に向かって、大きく羽ばたくことを期待しております。ご卒業おめでとうございます。



森のスノーパーク in 川湯温泉

教育長職務代理者 金井 秀明



2月25日(土)、川湯ビクターセンターとその周辺で森のスノーパークが、てしかがえこまち推進協議会の主催で行われました。時々小雪の降る日でしたが、多くの子どもや参加者で賑わいました。前日からスタッフが準備したティピーテントや焼き火台、雪を積み上げた小さな丘の滑り台、スタンプラリーなど盛りだくさんのイベントがありました。途中でスタンプラリーのお店が閉まってしまい、参加者が困って駆け込んで来ましたが(一番パニックしたのはスタッフ)、何とか問題解決。始終手作り感満載のイベントでした。来訪者も標茶町や別海町、遠くは横浜市から見えた方もいらっしゃいました。川湯ビクターセンターの2階で、「たい焼き」ならぬ「ます焼き」もデビューし、一食の価値有です。

摩周☆スノーランドと子どもたち

教育委員 菅原 誓之

2月11日(土)、12日(日)に、ふれあいスペース「コラーレ」において、摩周スノーランドが開催されました。私は実行委員ではありませんが、外部の手伝いということで声が掛かりましたので参加しました。担当は、会場内で子どもたちを乗せて走る乗り物の運転手です。種類も豊富で、バギー・スノーモービル・スノーバイク・大型のそりです。当日は天候にも恵まれ、沢山の子どもたちが来ていました。全ての乗り物が無料ということもあり、長蛇の列です。大型のそりは1回で12~3人を乗せられるので数をこなせますが、他の乗り物は1人ずつなので結構大変です。蔵の周りを2周して子どもを降ろし、また乗せる。これの繰り返し2日間でした。数日間太ももの筋肉痛が取れませんでした。久しぶりに沢山の子どもたちの笑顔が見られました。



伊藤若冲!

教育委員 吉田 一徳

東京の三井美術館で江戸絵画の華展が開催され、様々な江戸期の絵師の作品を見ました。

本来であれば2年前に開催予定でしたが、コロナ感染拡大によって延期になり、ようやく今年に入って鑑賞することが出来ました。

この展覧会の中でも1番注目があつたのが伊藤若冲の作品で、得意とする鶏の作品は素晴らしいものでした。

弟子屈に住んでいると、なかなかこのような文化に接する機会がないのが悩みの種ですが、百聞は一見にしかず、ぜひ本物を目にしてほしいと思います。



多彩なスポーツで大きな活躍

教育委員 宮田 昇子



町スポーツ表彰・スポーツ協会表彰の授賞式が3月14日に行われました。全国大会・全道大会で上位入賞した、スポーツの普及に功績のあった個人や団体を表彰するもので、今年度は7名が受賞。岩原教育長と高橋正秀スポーツ協会会長から表彰状が手渡されました。

コロナ禍でスポーツ活動も制限を余儀なくされてきた中、たゆまぬ努力で栄冠を手にした皆さんに心を打たれました。表彰の詳細については、町ホームページの「教育長日記」を参照ください。

コロナ禍でスポーツ活動も制限を余儀なくされてきた中、たゆまぬ努力で栄冠を手にした皆さんに心を打たれました。表彰の詳細については、町ホームページの「教育長日記」を参照ください。

北海道の公立高校入試が変わって2年目。入試問題は初年度に比べ難化し、多くの受験生が苦戦したようです。センター試験から移行した大学入学共通テストも、初年度は易しめ、2年目難化、3年目の今年はまた傾向の違った難化でした。制度が変わってから数年は手探りが続くものなのでしょうか。

入試問題によって聞きたいのは、受験生のどのような力なのか、そして実際に入試問題は、その趣旨に沿ったものなのか…。検証して今後に生かしてほしいと個人的には思います。

試験の春を乗り越え、新たなステージに立つ皆さん、おめでとうございます。希望に満ちた未来であるよう、故郷弟子屈から応援しています。(宮田)

編集後記